おありがたうぞんじ奉ります

女房いふ

まちがひると棒だぞ○たて

毎夜引け過ぎ、女房の前へ、又新造子供殘らず居並ぶ、

女房いふ

火の用心大切は〳〵、上々樣方へ御奉公〳〵

お客人さまは大切〳〵、わいらが親を孝行にしてやつたかはりの奉公だぞ、諸神樣、諸佛樣、諸神樣諸佛樣上々樣〳〵〳〵、お慈悲〳〵〳〵ぞ、よろしい、いつて休息〳〵〳〵、

子供新造一同に

おありがたう存じ奉ります、おやすみなされませうというて、皆々臥所にいるといへり、

此毎日の唱事、正月元日は、お玄よく女郎をはじめ、新造、禿、男女出入の者に至るまで、殘らずならび居て、かくの如くいふとぞ、

〔嬉遊笑覽九 娼妓〕揚屋さしがみは、揚屋より娼家へ太夫をかりにつかはす公驗なり、犬枕に、長きものせつ句正月のおさしがみとあり、平日とは、文言異なるにや、尾張屋清十郎より、三浦四郎左衞門へ、太夫薄雲をかりに遣したるさしがみ、寸錦雜綴に出たり、五元集、戀の年差紙籠をさらへけり、竹文點、前句付、どうもいはれぬ〳〵、さし紙を揚屋の妻が一トなぐり、

〔花街漫錄上〕揚屋差紙 竪九寸六分 横四寸三分

揚屋差紙

今日客御座候ニ付、其方ノ御内つまさき殿と申女郎衆、晝内雇ひ申候、此客前ゟ御尋之御法度衆ニては無御座候、いかにも慥成人に御座候、若横合ゟ御法度ノ衆と申者御座候はゞ、何方迄も我等罷出申分可仕候、爲後日如件、